

不屈の精神で

最後には認められた 結城秀康



結城秀康肖像
(運正寺蔵)

福 井城の御本城橋を抜けると、馬にまたがる勇敢な姿の像があります。福井藩祖・結城秀康の石像です。徳川家康の次男として生まれた彼は、その武勇を轟かせ、後に福井城（当時は北庄城）を築き上げました。しかし、その功績は家康の実子という立場で成し得たものではありませんでした。

秀康は、天正2（1574）年、浜松庄宇布見村（現在の静岡県浜松市）で徳川家康とその侍女・お万のもとに生まれます。侍女の懐妊の知らせに、家康は正室（築山殿）の怒

りを恐れ、お万を家臣の本多重次に預け、お万は密かに秀康を生んだとされています。秀康は家康から憚られ、小牧・長久手の戦いの後には、秀康は人質として豊臣秀吉のもとへ送られました。またその6年後には結城家に婿養子に出されるなど、政略に翻弄される不遇な少年時代を過ごしていました。

このように政略に振り回された秀康ですが、猛々しい徳川の血が腐ることはありませんでした。慶長5（1600）年の関ヶ原の戦いでは、会津の上杉景勝の抑えとして宇

都宮城を任せられます。景勝が大軍を率いて出陣してくるといふ噂が流れた際、秀康は「上方で石田三成が乱を起し留守番としてここにいるが、退屈だ。そこで一つ合戦をしないか。我らが攻め入るか、逆にこちらへ出馬するか、返事通りにする」と景勝へ一筆したためます。それに対して景勝は「主人のいない留守へ合戦を仕掛けるようなことはしない」と返答。噂は収まり、人々は秀康の知勇を賞賛して伝えました。結果、戦いは行われず、家康は上杉景勝を抑えた秀康の功績を認め、慶長6（1601）年、秀康に越前68万石を与えました。幼少期には家康から憚られていた秀康が、自らの知勇により、ついに父・家康に認められたのです。

また、秀康は家臣からも認められた人物であったことを伝えるエピソードがあります。ある日、家康が次の後継者は誰がいいかと重臣に問うと、大久保忠隣は秀忠を推します。が、老中・本多正信は「三河殿（結城秀康）は武勇は絶倫で智謀も淵深である」として秀康を推しました。このとき、徳川四天王の一人・本多忠勝と、正信の子・本多正純も秀康を支持したと伝わっています。武芸に秀でた忠勝、智略に秀でた正信と正純が推した秀康は、まさに文武両

道の人物として周囲にも認められていたことがうかがえます。

越前封入後、秀康は北庄城の改築という大事業を成し遂げましたが、慶長12（1607）年、病に倒れ34歳の若さでその生涯を閉じました。不遇な時代を過ごしながらも、不屈の信念で最後には一国の礎を築き上げた秀康。彼の生き様は後世に語り継がれ、現在の福井の人々にも顕彰されています。

関連史料・ゆかりの地

福の井



「福の井」は結城秀康による北庄城築城当時からあった井戸と考えられています。安永4（1775）年の「御城下絵図」の天守台には「福井」と記された井戸が描かれています。この頃には一般に「福の井」と呼ばれ、福井城の特別な井戸となっていたことがうかがえます。

【住所】福井市大手3丁目17-1（JR福井駅より徒歩約5分）